

【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

窓枠(12)又は壁面に取付けられる取付部(13)と、前記取付部(13)から突設されタッセル(14)のリング紐(14b)を掛ける掛止部(16)と、前記掛止部(16)に取外し可能に取付けられ前記掛止部(16)より大径のトップ部(17)とを備えたカーテン用房掛けであって、

前記掛止部(16)の先端部に前記タッセル(14)のリング紐(14b)を遊挿可能な切欠き(16a)が形成され、

前記掛止部(16)に前記トップ部(17)を取付けることにより前記切欠き(16a)の開口部が閉止されるように構成された

ことを特徴とするカーテン用房掛け。

10

【請求項 2】

掛止部(16)の先端面から切欠き(16a)の中央を貫くように通穴(16b)が形成され、

トップ部(17)に前記通穴(16b)に挿入可能な突起(18)が設けられ、

前記突起(18)にねじ孔(18a)が形成され、

前記通穴(16b)に前記突起(18)を挿入した状態で前記突起(18)の前記ねじ孔(18a)に対向する位置に透孔(16c)が形成され、

ビス(21)を前記透孔(16c)に通して前記ねじ孔(18a)に螺合することにより前記トップ部(17)が前記掛止部(16)に取付けられた請求項 1 記載のカーテン用房掛け。

【請求項 3】

窓枠(52)又は壁面に取付けられる取付部(53)と、前記取付部(53)に取外し可能に取付けられタッセル(54)のリング紐(54b)を掛ける掛止部(56)と、前記掛止部(56)と一体的に設けられ前記掛止部(56)より大径のトップ部(57)とを備えたカーテン用房掛けであって、

前記掛止部(56)の前記取付部(53)に対向する端部に前記タッセル(54)のリング紐(54b)を遊挿可能な切欠き(56a)が形成され、

前記取付部(53)に前記掛止部(56)を取付けることにより前記切欠き(56a)の開口部が閉止されるように構成された

ことを特徴とするカーテン用房掛け。

20

【請求項 4】

掛止部(56)の取付部(53)に対向する端面から切欠き(56a)の中央を貫くように通穴(56b)が形成され、

取付部(53)に前記通穴(56b)に挿入可能な突起(58)が設けられ、

前記突起(58)にねじ孔(58a)が形成され、

前記突起(58)に前記通穴(56b)を嵌入した状態で前記突起(58)の前記ねじ孔(58a)に対向する位置に透孔(56c)が形成され、

ビス(61)を前記透孔(56c)に通して前記ねじ孔(58a)に螺合することにより前記掛止部(56)が前記取付部(53)に取付けられた請求項 3 記載のカーテン用房掛け。

30

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、窓の側縁を形成する窓枠近傍でカーテンを束ねて保持するための房掛けに関するものである。

40

【背景技術】**【0002】**

従来、カーテン用房掛けとして、窓枠等に固定するための基台部と、タッセルを掛止めるためのアーム部とを備えたカーテン用房掛けが開示されている(例えば、特許文献 1 参照。)。このカーテン用房掛けでは、基台部とアーム部とが別体に設けられるとともに、基台部にタッセルを掛けることが可能なアーム受けが設けられる。またアーム受け又はアーム部のいずれか一方又は双方に、アーム部をアーム受けに支持固定可能とするとともに、アーム受けに掛けられたタッセルの脱落を阻止する固定手段が設けられる。更に固定手段が、アーム受けの先端部に設けられた支持孔と、この支持孔に挿通固定可能としたア

50

ーム部とで構成される。

【 0 0 0 3 】

このように構成されたカーテン用房掛けでは、タッセルの一端側の掛止環が、アーム受けの基端部に掛けられ、タッセルの他端側の掛止環がアーム部に掛けられるので、掛止環の取外し作業に対し、一端側の掛止環が緩衝せず、他端側の掛止環の取外し作業を常に迅速かつ容易に行うことができる。またタッセルの一端側の掛止環が、アーム部をアーム受けから抜かない限りアーム受けから外れないので、他端側の掛止環をアーム部から取外す際に、一端側の掛止環と一緒に外れることはない。更にアーム部が基台部の前方に基台部を覆うようにアーム受けに支持されるので、基台部を窓枠に固定するビスがアーム部で覆い隠されて、美観を向上できるようになっている。

10

【特許文献 1】特開平 1 1 - 1 6 9 2 8 4 号公報（請求項 1 及び 2、段落 [0 0 1 6]、図 1 ~ 図 4）

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【 0 0 0 4 】

しかし、上記従来の特許文献 1 に示されたカーテン用房掛けでは、タッセルの一端側の掛止環がアーム受けから外れないようにするために、アーム部を比較的長くしなければならず、このアーム部が室内への家具の配置の邪魔になったり、窓の近くでの作業時に作業者の体が比較的大きなアーム部に接触し易くなる問題点があった。

本考案の目的は、部品を大型化することなく、タッセルの落下や紛失を確実に防止できる、カーテン用房掛けを提供することにある。

20

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 5 】

請求項 1 に係る考案は、図 1 ~ 図 3 に示すように、窓枠 1 2 又は壁面に取付けられる取付部 1 3 と、取付部 1 3 から突設されタッセル 1 4 のリング紐 1 4 b を掛ける掛止部 1 6 と、掛止部 1 6 に取外し可能に取付けられ掛止部 1 6 より大径のトップ部 1 7 とを備えたカーテン用房掛けであって、掛止部 1 6 の先端部にタッセル 1 4 のリング紐 1 4 b を遊挿可能な切欠き 1 6 a が形成され、掛止部 1 6 にトップ部 1 7 を取付けることにより切欠き 1 6 a の開口部が閉止されるように構成されたことを特徴とするカーテン用房掛けである。

30

請求項 2 に係る考案は、請求項 1 に係る考案であって、図 1 ~ 図 3 に示すように、掛止部 1 6 の先端面から切欠き 1 6 a の中央を貫くように通穴 1 6 b が形成され、トップ部 1 7 に通穴 1 6 b に挿入可能な突起 1 8 が設けられ、突起 1 8 にねじ孔 1 8 a が形成され、通穴 1 6 b に突起 1 8 を挿入した状態で突起 1 8 のねじ孔 1 8 a に対向する位置に透孔 1 6 c が形成され、ビス 2 1 を透孔 1 6 c に通してねじ孔 1 8 a に螺合することによりトップ部 1 7 が掛止部 1 6 に取付けられたことを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

請求項 3 に係る考案は、図 4 ~ 図 6 に示すように、窓枠 5 2 又は壁面に取付けられる取付部 5 3 と、取付部 5 3 に取外し可能に取付けられタッセル 5 4 のリング紐 5 4 b を掛ける掛止部 5 6 と、掛止部 5 6 と一体的に設けられ掛止部 5 6 より大径のトップ部 5 7 とを備えたカーテン用房掛けであって、掛止部 5 6 の取付部 5 3 に対向する端部にタッセル 5 4 のリング紐 5 4 b を遊挿可能な切欠き 5 6 a が形成され、取付部 5 3 に掛止部 5 6 を取付けることにより切欠き 5 6 a の開口部が閉止されるように構成されたことを特徴とするカーテン用房掛けである。

40

請求項 4 に係る考案は、請求項 3 に係る考案であって、図 4 ~ 図 6 に示すように、掛止部 5 6 の取付部 5 3 に対向する端面から切欠き 5 6 a の中央を貫くように通穴 5 6 b が形成され、取付部 5 3 に通穴 5 6 b に挿入可能な突起 5 8 が設けられ、突起 5 8 にねじ孔 5 8 a が形成され、突起 5 8 に通穴 5 6 b を嵌入した状態で突起 5 8 のねじ孔 5 8 a に対向する位置に透孔 5 6 c が形成され、ビス 6 1 を透孔 5 6 c に通してねじ孔 5 8 a に螺合することにより掛止部 5 6 が取付部 5 3 に取付けられたことを特徴とする。

50

【考案の効果】

【0007】

請求項1に係る考案では、カーテン用房掛けの取付部を窓枠等に取り付け、タッセルの一方のリング紐を掛止部の切欠きに遊挿した後に、トップ部を掛止部に取り付けると、上記切欠きの開口部がトップ部により閉止されるので、一方のリング紐が房掛けから外れなくなる。この結果、タッセルの他方のリング紐を掛止部に掛けたり或いは掛止部から外しても、タッセルが房掛けから落下することがなく、タッセルの紛失を確実に防止できる。またタッセルの一端側の掛止環がアーム受けから外れないように、アーム部を比較的長く形成したため、アーム部が家具の配置の邪魔になったり、或いは窓の近くでの作業時に作業者の体が比較的大きなアーム部に接触し易くなる問題点のあった従来のカーテン用房掛けと比較して、本考案では、トップ部がタッセルの他方のリング紐を嵌入できるように比較的小径に形成されているので、トップ部が家具の配置の邪魔になることはなく、また窓の近傍で作業しても作業者の体がトップ部に接触し難いという利点がある。

10

【0008】

請求項3に係る考案では、カーテン用房掛けの取付部を窓枠等に取り付け、タッセルの一方のリング紐を掛止部の切欠きに遊挿した後に、この掛止部をトップ部とともに取付部に取り付けると、上記切欠きの開口部が取付部により閉止されるので、一方のリング紐が房掛けから外れなくなる。この結果、タッセルの他方のリング紐を掛止部に掛けたり或いは掛止部から外しても、タッセルが房掛けから落下することがなく、タッセルの紛失を確実に防止できる。

20

【考案を実施するための最良の形態】

【0009】

次に本考案を実施するための最良の形態を図面に基づいて説明する。

<第1の実施の形態>

図1及び図2に示すように、カーテン用房掛け11は、窓枠12の室内側の面に取り付けられる取付部13と、取付部13から突設されタッセル14のリング紐14bを掛ける掛止部16と、掛止部16に取外し可能に取り付けられ掛止部16より大径のトップ部17とを備える。取付部13は円板状に形成され、掛止部16は円筒状に形成され、これら取付部13及び掛止部16は垂鉛ダイキャストやアルミダイキャスト等により一体的に成形される。また掛止部16の先端部にはタッセル14のリング紐14bを遊挿可能な切欠き16aが形成される。この切欠き16aは掛止部16の中心より所定の距離だけ上方に偏倚した位置に水平方向に延びて形成される(図1及び図3)。更に掛止部16の先端面からは切欠き16aの中央を貫くように掛止部16の軸芯に沿って延びる通穴16bが形成され(図1～図3)、取付部13の中央には取付孔13aが形成される(図1及び図2)。上記通穴16bの断面は下部が四角形状であって上部が円弧状に形成される(図1及び図3)。取付孔13はタッピングねじ19を挿通可能な孔であって、上記通穴16bを臨むように形成される。なお、上記通穴16bの上部の断面を円弧状に形成したのは、タッピングねじ19の頭部19aを通穴16bに挿入できるようにするためである。

30

【0010】

一方、トップ部17には通穴16bに挿入可能な突起18が設けられ、この突起18は垂鉛ダイキャストやアルミダイキャスト等によりトップ部17と一体的に成形される(図1～図3)。この突起18は四角柱状に形成される。上記通穴16bの下部の断面を四角形状に形成したのは、突起18を通穴16bに挿入できるようにするとともに、突起18の下面を通穴16bの内底面に密着させるためである。またトップ部17には、突起18の基端に位置しかつ掛止部16の通穴16bの断面形状に相応した形状、即ち下部が四角形状であって上部が円弧状に形成された凸部17aが設けられる(図2)。この凸部17aは、突起18を通穴16bに挿入していったときに、この凸部18も通穴16bに挿入されて、突起18が掛止部16に対して回転するのを阻止して、回転方向の位置決めをするために設けられる。更に突起18にはビス21を螺合可能なねじ孔18aが形成され(図1～図3)、掛止部16の下面には通穴16bに突起18を挿入した状態で突起18の

40

50

ねじ孔 1 6 に対向する位置に透孔 1 6 c が形成される (図 2 及び図 3)。ビス 2 1 を透孔 1 6 c に通してねじ孔 1 8 a に螺合することによりトップ部 1 7 が掛止部 1 6 に取付けられる。これにより掛止部 1 6 の切欠き 1 6 a の開口部が閉止されるように構成される。なお、カーテンを束ねるタッセル 1 4 は、この実施の形態では、カーテンに巻き付けられる房部 1 4 a と、房部 1 4 a の両端に設けられた一対のリング紐 1 4 b , 1 4 b と、房部 1 4 a に所定の間隔をあけて嵌入された略球状の装飾部材 1 4 c とを有する (図 1)。一方のリング紐 1 4 b は掛止部 1 6 の切欠き 1 6 a に遊挿され、他方のリング紐 1 4 b は掛止部 1 6 に掛けられる。また房部 1 4 a と一対のリング紐 1 4 b , 1 4 b とは金属の線条により一体的に形成され、装飾部材 1 4 c は透明又は半透明のプラスチックやガラス等により形成される。

10

【 0 0 1 1 】

このように構成されたカーテン用房掛け 1 1 の窓枠 1 2 への組付方法を説明する。まずタッピングねじ 1 9 を房掛け 1 1 の取付部 1 3 の取付孔 1 3 a に通した後に、窓枠 1 2 にねじ込むことにより、取付部 1 3 をこの取付部 1 3 と一体成形された掛止部 1 6 とともに窓枠 1 2 に取付ける。次にタッセル 1 4 の一方のリング紐 1 4 b を掛止部 1 6 の切欠き 1 6 a に遊挿した後に、掛止部 1 6 の通穴 1 6 b に突起 1 8 を挿入する。更にビス 2 1 を掛止部 1 6 の透孔 1 6 c に通した後に突起 1 8 のねじ孔 1 8 a に螺合すると、トップ部 1 7 が掛止部 1 6 に取付けられる。これにより掛止部 1 6 の切欠き 1 6 a の開口部がトップ部 1 7 にて閉止されるので、一方のリング紐 1 4 b が房掛け 1 1 から外れなくなる。この結果、タッセル 1 4 の他方のリング紐 1 4 b を掛止部 1 6 に掛けたり或いは掛止部 1 6 から外しても、一方のリング紐 1 4 b は房掛け 1 1 から外れないので、タッセル 1 4 が房掛け 1 1 から落下せず、タッセル 1 4 の紛失を確実に防止できる。

20

【 0 0 1 2 】

< 第 2 の実施の形態 >

図 4 ~ 図 6 は本考案の第 2 の実施の形態を示す。この実施の形態では、カーテン用房掛け 5 1 は、窓枠 5 2 の室内側の面に取付けられる取付部 5 3 と、取付部 5 3 に取外し可能に取付けられタッセル 5 4 のリング紐 5 4 b を掛ける掛止部 5 6 と、掛止部 5 6 と一体的に設けられ掛止部 5 6 より大径のトップ部 5 7 とを備える。取付部 5 3 は亜鉛ダイキャストやアルミダイキャスト等により円板状に形成され、この取付部 5 3 の中央上部には取付孔 5 3 a が形成される (図 4 及び図 5)。この取付孔 5 3 a にはタッピングねじが挿通される。

30

【 0 0 1 3 】

掛止部 5 6 は円筒状に形成され、この掛止部 5 6 は亜鉛ダイキャストやアルミダイキャスト等によりトップ部 5 7 と一体的に成形される。また掛止部 5 6 の先端部、即ち掛止部 5 6 の取付部 5 3 に対向する端部には、タッセル 5 4 のリング紐 5 4 b を遊挿可能な切欠き 5 6 a が形成される。この切欠き 5 6 a は掛止部 5 6 の中心より所定の距離だけ上方に偏倚した位置に水平方向に延びて形成される (図 4 及び図 6)。更に掛止部 5 6 の先端面からは切欠き 5 6 a の中央を貫くように掛止部 5 6 の軸芯に沿って延びる通穴 5 6 b が形成され (図 4 ~ 図 6)、上記通穴 5 6 b の断面は下部が四角形状であって上部が円弧状に形成される (図 4 及び図 6)。

40

【 0 0 1 4 】

一方、取付部 5 3 には、通穴 5 6 b に挿入可能な四角柱状の突起 5 8 が取付部 5 3 と一体的に設けられる (図 4 ~ 図 6)。上記通穴 5 6 b の下部の断面を四角形状に形成したのは、通穴 5 6 b を突起 5 8 に嵌入できるようにするとともに、突起 5 8 の下面を通穴 5 6 b の内底面に密着させるためである。また突起 5 8 にはビス 6 1 を螺合可能なねじ孔 5 8 a が形成され (図 4 ~ 図 6)、掛止部 5 6 の下面には突起 5 8 に通穴 5 6 b を嵌入した状態で突起 5 8 のねじ孔 5 8 a に対向する位置に透孔 5 6 c が形成される (図 5 及び図 6)。ビス 6 1 を透孔 5 6 c に通してねじ孔 5 8 a に螺合することによりトップ部 5 7 が掛止部 5 6 とともに取付部 5 3 に取付けられる。これにより掛止部 5 6 の切欠き 5 6 a の開口部が取付部 5 3 にて閉止されるように構成される。なお、カーテンを束ねるタッセル 5 4

50

は、この実施の形態では、カーテンに巻き付けられる房部 5 4 a と、この房部 5 4 a の両端に設けられた一对のリング紐 5 4 b , 5 4 b とを有する (図 4)。一方のリング紐 5 4 b は掛止部 5 6 の切欠き 5 6 a に遊挿され、他方のリング紐 5 4 b は掛止部 5 6 に掛けられる。また房部 5 4 a は帯状の布により形成され、一对のリング紐 5 4 b , 5 4 b は合成繊維を編んで形成される。図 4 及び図 5 の符号 5 6 d は掛止部 5 6 がタッピングねじ 5 9 の頭部 5 9 a と干渉するのを防止するために、掛止部 5 6 に形成された凹部である。

【 0 0 1 5 】

このように構成されたカーテン用房掛け 5 1 の窓枠 5 2 への組付方法を説明する。まずタッピングねじ 6 1 を房掛け 5 1 の取付部 5 3 の取付孔 5 3 a に通した後に、窓枠 5 2 にねじ込むことにより、取付部 5 3 を窓枠 5 2 に取付ける。次にタッセル 5 4 の一方のリング紐 5 4 b を掛止部 5 6 の切欠き 5 6 a に遊挿した後に、取付部 5 3 の突起 5 8 に掛止部 5 6 の通穴 5 6 b を嵌入する。更にビス 5 9 を掛止部 5 6 の透孔 5 6 c に通した後に突起 5 8 のねじ孔 5 8 a に螺合すると、掛止部 5 6 がこの掛止部 5 6 と一体成形されたトップ部 5 7 とともに取付部 5 3 に取付けられる。これにより掛止部 5 6 の切欠き 5 6 a の開口部が取付部 5 3 にて閉止されるので、一方のリング紐 5 4 b が房掛け 5 1 から外れなくなる。この結果、タッセル 5 4 の他方のリング紐 5 4 b を掛止部 5 6 に掛けたり或いは掛止部 5 6 から外しても、一方のリング紐 5 4 b は房掛け 5 1 から外れないので、タッセル 5 4 が房掛け 5 1 から落下せず、タッセル 5 4 の紛失を確実に防止できる。なお、上記第 1 及び第 2 の実施の形態では、カーテン用房掛けの取付部を窓枠の室内側の面に取付けたが、カーテン用房掛けの取付部を室内の壁面に取付けてもよい。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 6 】

【 図 1 】 本考案第 1 実施形態のカーテン用房掛けの掛止部の切欠きにタッセルのリング紐を遊挿した状態を示す分解斜視図である。

【 図 2 】 そのカーテン用房掛けを窓枠に取付けた状態を示す縦断面図である。

【 図 3 】 図 2 の A - A 線断面図である。

【 図 4 】 本考案第 2 実施形態のカーテン用房掛けの掛止部の切欠きにタッセルのリング紐を遊挿した状態を示す分解斜視図である。

【 図 5 】 そのカーテン用房掛けを窓枠に取付けた状態を示す縦断面図である。

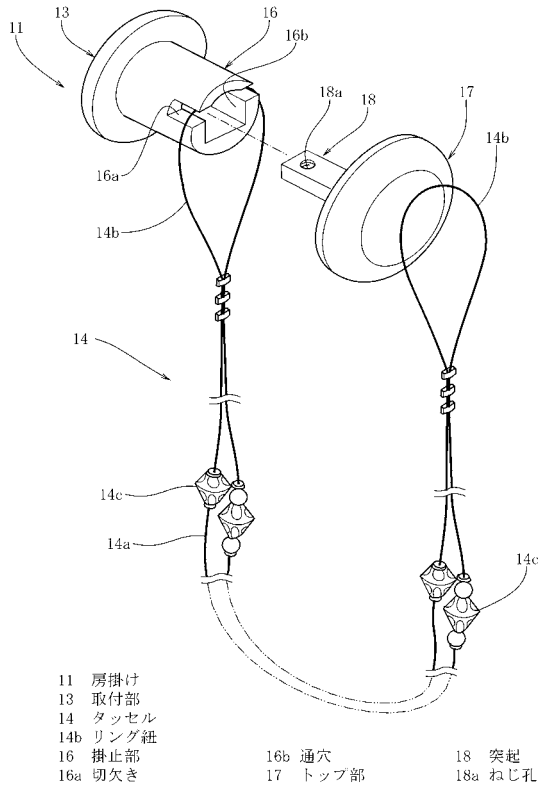
【 図 6 】 図 5 の B - B 線断面図である。

【 符号の説明 】

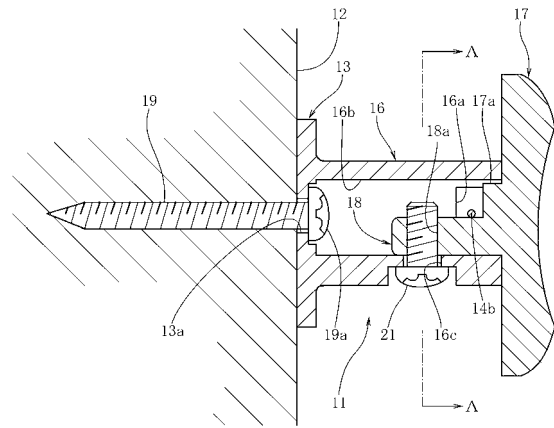
【 0 0 1 7 】

- 1 1 , 5 1 房掛け
- 1 2 , 5 2 窓枠
- 1 3 , 5 3 取付部
- 1 4 , 5 4 タッセル
- 1 4 b , 5 4 b リング紐
- 1 6 , 5 6 掛止部
- 1 6 a , 5 6 a 切欠き
- 1 6 b , 5 6 b 通穴
- 1 6 c , 5 6 c 透孔
- 1 7 , 5 7 トップ部
- 1 8 , 5 8 突起
- 1 8 a , 5 8 a ねじ孔
- 2 1 , 6 1 ビス

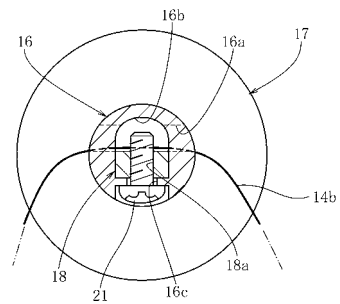
【図 1】



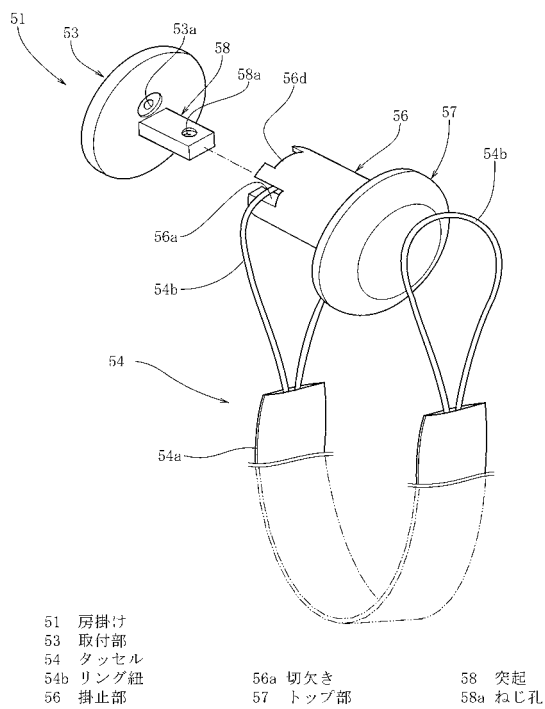
【図 2】



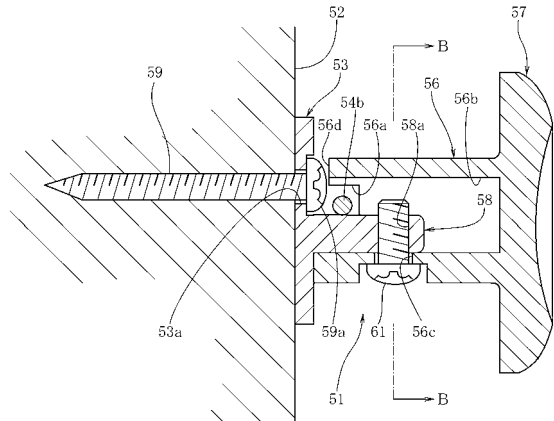
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

